

## コミュニティ・スクール制度の導入に向けて

－土岐小の「強み」である【地域とともにある学校】のさらなる向上に向けて－

校長 加藤 隆史

令和3年度もあと2ヶ月となった今、世の中はオミクロン株による第6波の渦中です。今回の波は子ども、若者世代を中心にこれまでにないペースで急増しており、お子さんや保護者様、そして地域の皆様には、本当にご心配をおかけしております。本校としてもなんとか、この波を乗り越え、全員の笑顔が揃うまでチーム土岐小で一人一人のお子様へ寄り添っていきます。

さて、土岐小学校に校長として赴任し10ヶ月が過ぎようとしています。この間、幾度もコロナウイルスの波が学校に押し寄せ、子どもたちの活動にも影響を与えました。その波を子どもたちが逞しく乗り越える姿に幾度も心を打たれました。そして、何より力になったのは、土岐小校区の地域の皆様、そして保護者の皆様の温かいお声かけでした。その声に何度も背中を押され、前に進むことができたと思っております。本当にありがとうございます。

このように土岐小学校の「強み」は、保護者様も含めた地域に守られ支えられる【地域とともにある学校】であることだと私は思います。そして、今後も【地域とともにある学校】を継続し、さらなる向上をはかるため、学校と地域、そして家庭が願いを共有し、同じ思いで子どもたちを指導、支援していく仕組みづくりが必要となります。

そこで、令和4年度より、土岐小学校は法律に基づいたコミュニティ・スクールとして歩み出します。法律に基づいた仕組みといっても、今までの地域と学校の結びつきが大きく変わるわけではありません。大きな転換のポイントは「社会総掛かり」で、土岐地区の子どもたちを育む体制をつくっていくということです。

コミュニティ・スクールとは、「学校運営協議会」という組織を設置している学校を指します。これまでは学校評議員会で地域の代表の方から意見をいただいて、それを学校運営に反映をしてきました。これからは、「学校運営協議会」において、地域や保護者の代表の方から意見をいただくだけでなく、地域と家庭、学校が同じ願いをもち、互いに意見を出し合い、一体となって子どもたちを育てていくこととなります。

具体的に、学校運営協議会及びコミュニティ・スクールについては、「どんなメンバーでどんな仕組みになるのか」「そこでは、どんなことを協議していくのか」「同じ願いというが、どんな願いで子どもたちを育てていくのか」など、令和2年度より準備委員会を組織して、検討をしてきました。今後、3月に開催を予定している準備委員会を経て、地域や保護者の皆様へ広く周知を図りたいと思っております。



コミュニティ・スクール準備委員会の様子